

今年も屋敷林見学会(南砺市)や植樹を！ 総会参加者にスギ・アテ苗配付

5月28日午後、中島家(チューリップ公園内)で、砺波カイニヨ倶楽部の総会を開きました。22名の参加で、17年度活動計画の確認と合わせ、役員改選では、全員再任することになりました。その後、記念講演に入り、富山地学会(砺波散村研究員)古川春夫氏の「第二次大戦中の供木等に関する新聞記事から——砺波地方の屋敷林を中心に」の話をお聞きしました。また、総会参加者に「スギとアテ」苗をペアで土産にもちかえり、植えてもらいました。これも台風23号被害をのりきるための、会としての願望と決意の一つです。

総会での活動などについて出された主な意見は、

- ・ カイニヨのさし絵を入れた記念ハガキを作ったことはよかった。暑中見舞いハガキに使えるか。
- ・ ミュージアムを考える会と共催で台風後に「屋敷林シンポ」をやったことは適宜だった。
- ・ 新聞に載っていたが台風倒木株を掘り取り、ミュージアムのどこに持っていき、どうするのか。会としての意見もあってよいのではないか。
- ・ ホームページに倶楽部活動の掲示板を作るとよい。
- ・ 枝打ちが一段と強度な形で進んでいるが、忠告できないのか。
- ・ 6/5の台風被害宅での植樹計画に会員以外の人にも参加してもらってもよいのではないか。地域の方々に宣伝していくとよい。

平成17年度事業計画

- 5月28日定期総会
 - ・ 記念講演 「新聞にみる第二次世界大戦の供木」 古川春夫先生
 - ・ 会員への苗木配付
- 6月5日(日)午前 台風倒木宅(野村さん)での植樹
- 6月19日(日)午前 散居ミュージアム見学会(自由見学)
(主催: 県・建築士会)
- 8月上旬 屋敷林見学会(南砺市城端町地内)
- 10月中旬 屋敷林の掃除



写真：記念講演を頂いた古川春夫氏



写真：総会スナップ

〈古川春夫氏講演の要旨〉

第二次大戦中の供木に関する新聞記事から — 砺波地方の屋敷林を中心に —

○ S16～S21年の北日本新聞の木材関係記事〈特に屋敷林の供木〉を調べた
大まかな記事の変化

S16年2月	国家総動員法の改正——木材統制法施行
S17年	木材の国家管理、屋敷林に注目——県通達で調査依頼
S17年後半	伐採協力者やその地域の紹介
S18年前半	屋敷林を造船材に利用するための供木指導
S18年後半	硬化木、積層材の開発
S19年	桐材航空伐採に——木材需要一層増加
S19年前半	胸高2.5尺以上の屋敷林皆伐運動
S19年後半	両砺波郡割り当36万石（県内の56%）
S20年	民有林の非常伐採
S20年5月以降	庭木・街路樹、板塀は防風濠に。利用木材関連記事なくなる
S20終戦後	木材関連記事はあっても戦時集荷材の行方は不明
S21年2月	復興材不足記事——唯一の県民の姿が出る

○ 読みとれることは

- ・農家を上手に供木にしむけていく過程がよくわかる
- ・屋敷林は搬出しやすく、資材利用に便利
- ・集荷した木材の用途は全く出てこない
- ・何度も屋敷林を伐採させるためのキャンペーンがはられる。村の世話役、中心者がその先頭に
- ・砺波の屋敷林が大乱伐された——どう復旧したのか不明

6月19日（日）：建設中の散居ミュージアムの復元棟とリフォーム棟の見学会（県と建築士会主催）に、小学生、地元一般参加者等300名近い人々が参加しました。

28名で野村さん宅の植樹 台風倒木復旧の願いをこめ

6月5日午前、砺波市五郎丸、野村光男さん宅で28名が参加し、スギ苗等を植えた。近隣の方も参加し手を加えた。その模様をたくさんの新聞やテレビが取材した。砺波市広報7月号にも掲載された。

野村さん宅は、たくさんの屋敷林でつまれた家だったが、一昨年新築で伐採したに加え、23号台風で全木がなくなり、新居がむき出しになっていた。家族のご理解を得て、カイニョ倶楽部で苗木を提供し植えさせてもらうことになった。野村さんの息子さんの和則さんは会員でもあり、家族での話合いも大いに行われた。植樹は野村さんの希望も入れ、スギ3本、ヒバ5本、ウラジロガシ3本、ヤマボウシ5本・計16本を、復旧への願いをこめ植えた。植樹の後野村さん夫妻は「はじめは植えんとおこうと思っていたが、みなさんに来てもらい植えていただき大変感謝しています。大きくなるのを楽しみにしたい」と話され、お礼の言葉をいただいた。

今度のとりくみは、カイニョ倶楽部発足以来はじめての行事であったが、地区の方々や、マスコミからも注目され、前向きに受け止められている。

植樹のあと、柏樹代表幹事が「元気なカイニョのかたち」というテーマで、野村さん宅の植樹の意とすることを話した。



写真：植付全景

写真：植付作業

